

コロナ禍を糧に ～オンライン授業活用戦略～

池田 七菜 (スポーツ振興グループ)

村本 知聡(教務事務/庶務チーム)

土元 英雄 (文学部)

古賀 柚衣(社会学部)

福井 雅人(理工学研究科)



対面・オンライン授業のメリット&デメリット

	メリット	デメリット
対面	<ul style="list-style-type: none">・交友関係が築きやすい・授業を五感で感じられる・生活リズムの形成・ここだけの話、脱線話等が聞ける	<ul style="list-style-type: none">・金銭的、時間的コストがかかる・コロナ感染のリスクがある・本意ではない授業の履修 (空きコマをつくらないため)
オンライン	<ul style="list-style-type: none">・メモが取りやすい・授業の振り返りがしやすい・履修の組み方に余裕ができる	<ul style="list-style-type: none">・授業態度や理解度を確認しづらい・きっかけがないと発言しづらい・受動的な学習になりやすい

DP達成のための重大な課題について解決する必要がある

発表の流れ

対面・オンライン授業におけるメリット&デメリット

1. 対面授業における課題とその解決策
2. オンライン授業における課題とその解決策
3. 授業形態の総合的な課題について
4. まとめ

1.対面授業の課題点 ～知識・技能の習得に向けて～

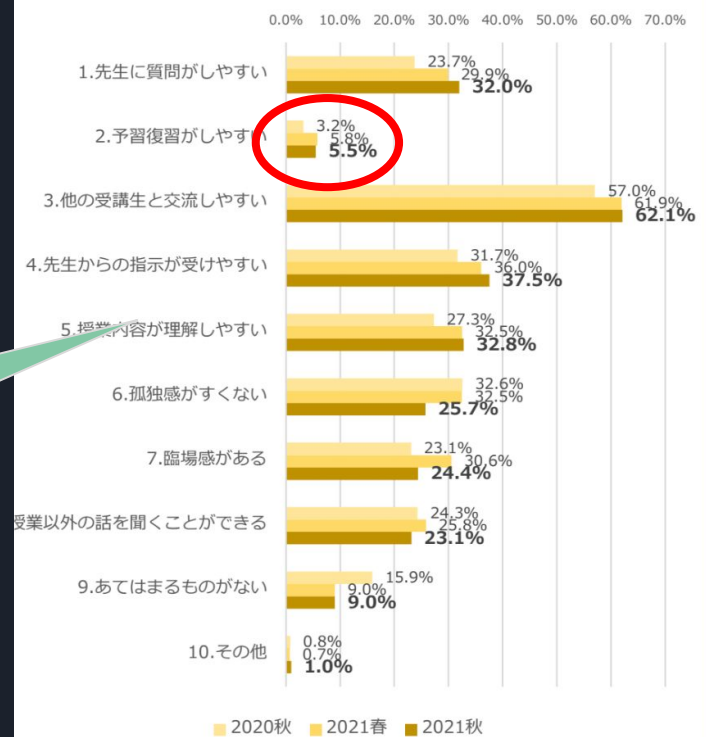
DP:(知識・技能)

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

授業の振り返りがしにくい
(理解度に影響)

深い理解や知識・技能の向上には、
授業時間外の**予習・復習**が重要！

対面授業を受講して「よかったこと」



引用:2021年度秋学期授業・学生生活に関するアンケート(ダイジェスト版)教学IRプロジェクト



解決策①対面授業を録画配信(例:panopto活用)

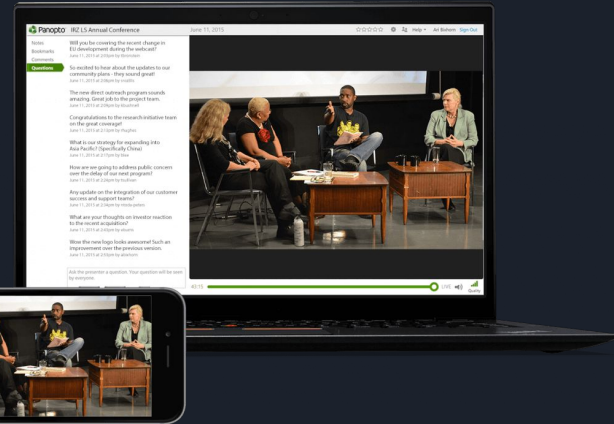
panoptoとは...動画コンテンツ収録・編集・管理・共有ができるクラウド型ソフトウェア

◆利点

- ・動画による振り返り学習ができる(DP達成に寄与)
(聞き漏れの減少)
- ・欠席者対応がしやすい
- ・障がいを持つ学生への対応にも役立つ(文字起こし)

◆考えられる課題

- ・対面ならではの脱線話がしにくくなる
→編集機能を使いカット
- ・panopto専用カメラの拡充



出典: 講義や授業を録画・キャプチャする | Panopto



解決策②反転授業の実施

～オンラインで知識を、対面で思考力・判断力・表現を～

反転授業とは・・・2000年頃に提唱された。**事前に動画配信で授業を視聴し、課題や小テストに取り組むことを前提に**、対面での議論や発表を実施する。対面もしくはオンラインでふりかえり等の実施も可能。

反転授業の役割→(小川(2015)を参考に作成)

①動画ツール視聴→②小テスト・アンケートの実施→③対面授業→④振り返り記入

	対面ーオンラインの関係	オンライン授業が果たす役割	順序
反転授業	主ー主(オンラインが対面の前提)	授業動画による学習・確認テスト等(必須)	オンライン→対面

第4回クニクニト 3 2022-05-15 11:41:45 0 3/4

コメント

第1回クニクニト 4 2022-04-11 10:26:18 0 4/4

コメント

第1回クニクニト 3 2022-04-11 10:25:03 0 2/4

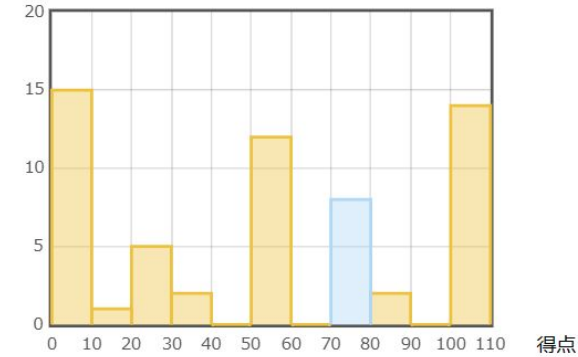
コメント

第1回クニクニト 2 2022-04-11 10:22:09 0 4/4

コメント

理解度テスト

人数



平均得点 : 51.75
 最大得点 : 100.00
 最小得点 : 0.00

心理学特修員b (2022-秋学期-水曜日-2限-21870) - 概大LMS

https://kulms.tk.kanai-u.ac.jp/webclass/resit_frame.php?acs_307923bf

テスト結果

テスト名: [Redacted]
 氏名/ユーザID: [Redacted]

平均得点 [51.75]
 最大得点 [100.00] 最小得点 [0.00]

日	得点	得点率
2022-12-15	75/100	75%

出題分野: 得点/配点 75/100 得点率 75%

問	解答	結果	得点/配点	解説	出題分野	コメント
1	○	25/25	Check			
2	×	0/25	Check			
3	○	25/25	Check			
4	○	25/25	Check			

結果 全体を表示

正解リスト (1) [Redacted]

※ 大文字小文字を区別しません。
 ※ 全角半角英数字を区別しません。
 ※ 全角半角スペースを区別しません。

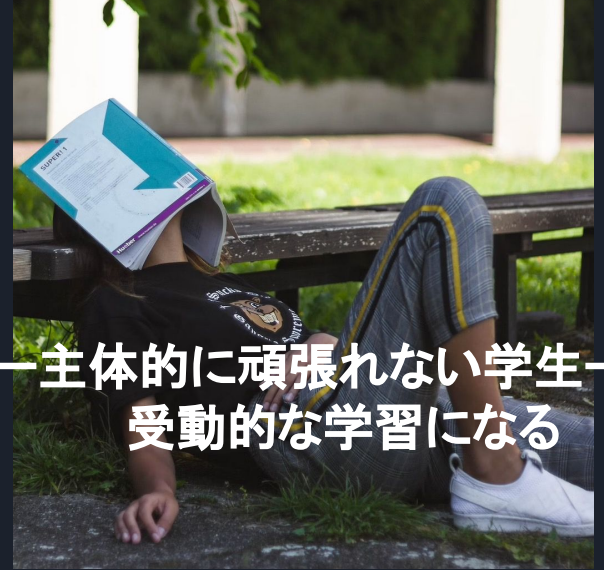
左上:LMS「レポート」(直接記入方式)
 右上:得点グラフ
 (LMSレポートおよび自習などで参照可能)
 左下:LMS「自習」
 (解答・点数等のフィードバックあり。単答式問題や
 選択肢問題メイン)

DP 3. (主体的な態度)について考える



—主体的に頑張れる学生—
メモがとれる

VS



—主体的に頑張れない学生—
受動的な学習になる

「自らの学びに責任をもち、直面する課題に主体的に取り組むことができる」
目標達成を実現するには・・・

- ほかの人との**相対評価**ができる**ツール**をもうける
- ミニッツペーパー、**カメラオン**にしたままのテスト
- オンラインは**LMS**の**その他のコース**にまとめる

LMSの活用事例

時間割表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限					専門科目	
2限	専門科目			一般教養	専門科目	
3限		専門科目				
4限				ゼミ		
5限						
6限						
7限						
8限						

その他のコース

検索

▶ ライティング力を高めて、い

このコースは公開コースです。誰でも利用できます

▶ 2022年度FD/SD研修プログラム 2022 通年 --

一般教養科目 ← 次学期 --

←ここにオンライン講義を
設定する



課題

前向きな理由でオンライン授業を履修できていない

現状は遠隔授業が家から受講することができ、

楽だから、遠隔授業が人気

→履修をする理由がDPを捉えていない(前向きな選択肢ではない)

遠隔授業の過度な履修はコミュニケーション能力の成長の妨げとなる

DP(思考力・判断力・表現力等の能力)のために、対面授業も履修すべき

(思考力・判断力・表現力等の能力)



グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。



対面と遠隔授業を比較したときの対面のメリットを増やす

キャンパス内(講義室、自習室、ジム等)に滞在している時はGPSで居場所を感知し、携帯にポイントが溜まるシステム

→ポイントは学内で使えるクーポンの抽選券であったり大きなインパクトでなくてもいい

学校に滞在した時間＝頑張った時間が可視化されることがメリットになる



課題

対面、遠隔が混在し、メリットが少ない



1限	対面
2限	遠隔
3限	対面
4限	遠隔

← キャンパス
で遠隔授業
受講 ←



授業形態の統一性を持たせる

大規模授業 →
(インプット中心)

オンライン
且つ
午前中

少人数授業
実習授業 →
(アウトプット中心)

対面
且つ
午後

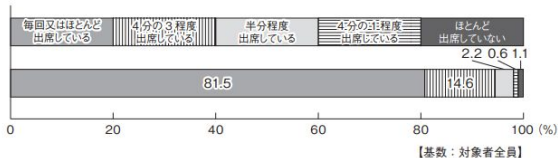
1限	遠隔
2限	遠隔
3限	対面
4限	対面

2018年

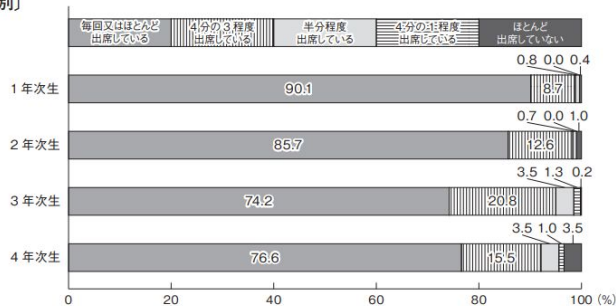
授業への出席率

問7 あなたは履修している授業にどの程度出席していますか。

【全体】



【学年別】

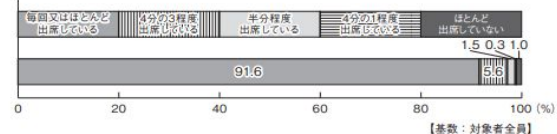


2020年

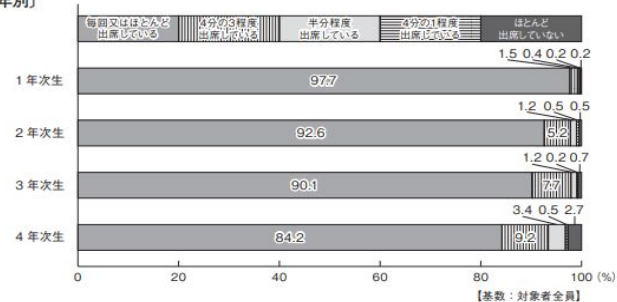
授業への出席率

問6 あなたは履修している授業にどの程度出席していますか。

【全体】



【学年別】



まとめ

1 (知識・技能)

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

→ **オンライン授業の利点を活かす**

2 (思考力・判断力・表現力等の能力)

グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

→ **DPを捉えた履修を促す**

3 (主体的な態度)

自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

→ **オンライン授業の選択肢を増やし、主体的な学習を促す。**

参考文献

- ・関西大学「2019年度学生生活実態調査報告-授業への出席率」[pdf5.pdf \(kansai-u.ac.jp\)](#)(参照2022-12-27)
- ・関西大学「2020年度学生生活実態調査報告-授業への出席率」[pdf5.pdf \(kansai-u.ac.jp\)](#)(参照2022-12-27)
- ・酒井佳世(2020)「ハイブリッド型授業におけるICTを活用した教育プログラムの検討」久留米大学コンピュータジャーナルVOL.35, (参照2022-12-28)
- ・澁川幸加(2020)「ブレンド型授業との比較 従来授業における予習との比較を通じた反転授業の特徴と定義の検討」日本教育工学会論文誌 J-STAGE Advance published (参照2022-12-28)